

●ポスターセッション (P-試験・分析法-1~16)

本ポスターセッションでは試験・分析法で16編の発表が行われた。(同-1)ではLASの測定法として、正電荷コロイド試薬を添加して蛍光分析で定量する方法が報告された。(同-2)では飲料水中の1,4-ジオキサンを固相抽出後GC/MSでの定量法について検討を行い、極微量を精度良く測定した。(同-3)ではポリカーバメイトにEDTAを添加して錯体を形成させ固相抽出後HPLCで測定するという簡便かつ迅速に分析する方法について報告された。(同-4)ではLC/MSによる糖の分析において、分子構造描画ソフトで糖に付加する可能性の高い化学種を選別して化学イオン化による高感度分析法の検討を行った。(同-5)ではケミカルトラップを用いたトラップモードでVOCsと1,4-ジオキサンを同時測定した結果を報告された。(同-6)では浄水プロセス管理に反映させるために耐塩素性病原虫のクリプトスポリジウムの個数を計測する自動測定装置について報告された。(同-7)ではLC/MS/MSを用いて臭素系難燃剤のHBCDの分析法の検討を行い、環境水へ適用することができたと報告された。(同-8)ではGC/MSによる水質、底質中のPBDEsの分析法の検討及びELISA法との比較を行った。底質試料はソックスサームによる抽出によりDeBDEが分解されずに測定できた。(同-9)では飲料水中のシアン化物イオン及び塩化シアンの測定において、結合残留塩素が存在しても影響が少ないフタル酸緩衝液を使用すべきと結論した。(同-10)では農薬のフェンバレートとエスフェンバレートについて個別の水質分析法の検討を行い、従来法の多成分農薬分析法に比べ1/100程度感度を上げることができた。(同-11)では重金属の分析前処理法としてイミノ二酢酸キレートディスク型カートリッジに環境水を通液して重金属を濃縮し、2M硝酸で溶出してICPで測定する方法を報告した。(同-12)では分離膜の無い電気分解装置の有効性について報告された。(同-13)ではプラスチック製の乳幼児用品・玩具から水やエタノールに溶出してくる化学物質をLC/MSで分析した結果、BPAやフタル酸エステル類を検出した。(同-14)ではゴカイや発光細菌を用いて重金属による急性毒性試験を実施して、感受性の比較を行った。(同-15)では高度処理合併浄化槽の微小動物群集解析に遺伝子を指標とする分子生物学的解析を行った結果、検鏡解析と整合性があったと報告された。(同-16)では底泥と汚泥試料からのDNA抽出を市販キットのQbiogene FastDNASPIN Kit for Soilを用いて行いその性能を評価した。

(名古屋市環境科学研究所 小島 節子)